

全国稲作経営者現地研究会inとちぎ 事例発表資料

発表者：栃木県稲作経営者会議
新山 勲 氏

1 地域の概要

東京から100キロ圏域にある真岡市は、北関東を構成する茨城県、群馬県の間であり、東北自動車道や北関東自動車道、常磐自動車道など高速道路網や、東北新幹線をはじめ、宇都宮線、水戸線など鉄道網の整備により、身近で歴史、文化の香る自然豊かな市である。

栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる大河鬼怒川を抱える自然環境豊かな都市です。東京駅からも東北新幹線や車を使えば約1時間40分程で到着する事ができる好立地。市の面積は、167.34平方キロメートル、人口は約81,000人、都市計画、工業団地造成、ほ場整備が進み、農業、工業、商業がバランスよく調和した理想的な地方都市といえる（平成27年4月1日現在）

2 新山氏の経営概要について

平成11年（1999年）4月就農。

祖父・祖母と共に苺20a、稲作1.5haからスタート。

就農当時、祖父が脳梗塞を患い右も左も分からず、地元の先輩や栃木県芳賀農業振興事務所の方々から、指導を受けながら始めた。

【令和元年の経営規模】

作目	面積
主食用米	28.0ha
飼料用米	29.5ha
麦	16.0ha
いちご	77a

【雇用者数】

専従者 2名、外国人技能実習生5名、
パート2名（トラクター等）、苺2名

【令和2年の経営規模】

作目	面積
主食用米	21.9ha
飼料用米	41.4ha
麦	16.8ha
いちご	77a

【雇用者数】

専従者2名、外国人実習生5名、社員2名
パート2名(作業補助)、苺 2名

3. 今後の課題等について

現在は、地域の農家から農地の貸借（借りてほしい）との意向が多く、農地が年々集まっている。

【今後の課題・目標】

○施設の整備や農業機械の整備、従業員等の人材育成、社内の役割分担が必要。

→人材育成では、技能実習生の免許取得により作業分担を行い、作業毎の責任者を決めることが必要。

→近代化育成資金等を活用し、大型施設の建設やGPSシステム導入により作業員の負担軽減を図る。

○地域の中心的担い手として、圃場の適正管理（除草・防除等）、借りた農地をしっかりと活用する。

○良品筆の作物栽培を心がけて、消費者が求める作物を栽培していくこと。